第95回全国高校サッカー きょう準々決勝

初4強へ勝者のイズム"継承"

鹿島魂 駒大高

（東京A）

決勝　9日14時5分　埼玉スタジアム

7日12時5分 埼玉スタジアム

- 東福岡（福岡）
- 東海大仰星（大阪）
- 正智深谷（埼玉）
- 青森山田（青森）

7日14時20分 埼玉スタジアム

- 滝川二（兵庫）
- 前橋育英（群馬）
- 佐野日大（栃木）

"鹿島魂"で8強の壁を越える。準々決勝4試合がきょう5日に行われ、駒大高（東京A）は佐野日大（栃木）と互いに初の4強入りを懸けて激突する。同校の園部大介GKコーチ（34）は2015年まで鹿島のジュニアユースでGKコーチを務めていた。同コーチからJクラブ最多19冠を誇る鹿島の勝者のイズムを注入されたイレブンが、歴史を変える戦いに挑む。

GK鈴木刺激 意識変わった

駒大高が世界を驚かせたメンタリティーを受け継ぎ、初のベスト4入りに挑む。10年度に同校のGKコーチを務めた後に、鹿島のジュニアユースコーチに転じていた園部氏が、15年度から再び同校のGKコーチに就任。園部コーチを通じて、鹿島の強さの秘密がチームに伝えられている。

GK鈴木も刺激を受けた一人だ。昨年夏、同コーチから「もっと切磋琢磨（せっさたくま）してやれ」と仲の良いGK征矢とのグラウンド内でのライバル意識の希薄さを指摘された。園部コーチは鹿島ユース出身で、右足を捻挫した3学年上のGK曽ケ端が左足一本だけでもゴールを守る姿を見てきた。正GKに定着した鈴木は「練習に対する姿勢を指摘してもらった」と感謝する。

他にも鹿島の主将を務めるMF小笠原がトレーナーにマッサージを頼るのではなく「自分でやらなきゃいけない」とにかく自己管理に厳しかったという話に選手たちは感銘を受けたという。準々決勝以降は中1日で試合をこなすハードな日程になるが、調整に抜かりはない。この日は都内の同校グラウンドで調整を行い、主力組は20分間のジョギングなどで決戦に備えた。

相手の佐野日大とは昨年12月18日には練習試合を行い駒大高はセットプレーから得点を奪って1―1で引き分けた。敵は堅守が特長だが、駒大高も東京都予選から6試合連続完封中。「ゼロに抑えて、セットプレーから1点、2点取って勝つのが理想」とGK鈴木は力を込めた。大野監督が「これだけのメンバーがそろったのは初めて。19年間見た中でも（技術は）最高レベル」と太鼓判を押すイレブン。勝者のイズムを胸に頂点を目指して突き進む。（波多野　詩菜）

鹿島魂で歴史を変える!!初の4強進出に向けて意気込む高橋主将（最前列左）、長井（同右）、鈴木（最後列中央）ら駒大高イレブン（撮影・西尾　大助）

左上 練習で軽快な動きを見せるGK鈴木

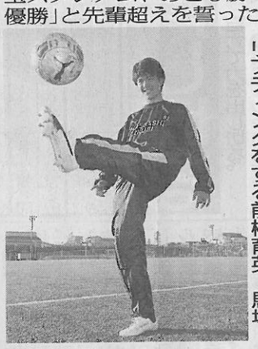
攻守好調も慢心なし

＜滝川二＞4強入りが懸かる前橋育英戦に向けて、4日に埼玉県川口市内で調整した。今大会はここまで3戦合13得点、守っては3戦連続完封。攻守の歯車がかみ合っているとはいえ、松岡監督が「前橋育英さんとは、正直レベルが全然違う。だからこそ（対戦が）楽しみ」と慢心は一切ない。チャレンジャー精神で、6年ぶりの全国優勝を目指す。

FW馬場 初戦2発の再現誓う

前橋育英は2年ぶりの4強入りが懸かる滝川二戦に向けて、千葉市内で調整を行った。3日の遠野（岩手）戦はボールを支配しながらも追加点を奪うことができず1―0で辛くも勝利。後半には足が止まってピンチの連続だったが、主将のMF大塚は「リフレッシュできました。反省するところは反省して、切り替えていきます」と明るい表情で話した。

滝川二とは練習試合も含め初対戦。宿舎ではチーム全員で試合映像を研究した。大塚は「運動量が多くて（ボールを）取ってからの縦が速い」と分析し、「ボランチの位置で止める」と宣言。初戦の明徳義塾（高知）戦で2得点したFW馬場は昨年8強で敗れた時の先輩たちの涙を見て「自分がやらなきゃ」と決意したと振り返り、「あと1勝で埼玉スタジアム、あと3勝で優勝」と先輩超えを誓った。



リフティングをする前橋育英・馬場

W司令塔弾決める

＜東福岡＞ダブル司令塔が2連覇へ勢いをつける。

J1磐田入りが内定しているMF藤川、G大阪入り内定のMF高江は今大会ここまで無得点で、森重監督は「（2人に）取ってほしい」とハッパをかけた。藤川は周りを見すぎてシュートへの迷いが生じていたと自己分析し、「点を取らないと」と意気込んだ。高江は「得点も狙うけどチームのために働かないと」と話した。

元鹿島Jrユースで指導 園部GKコーチが伝授

同じタイプを使用。得点を決めれば仲間から「ヤザール」と声が掛かる背番号10は「次もゴールを決めたい」と力を込めた。中学時代は磐田のFW小川と同じ大豆戸FCでプレー。小川からは「（8強だった）去年を超えろよ」とメールをもらい燃えている。